

研究課題名	新たな食の信頼向上活動の効率性及び政策支援の有効性に関する研究
研究総括者	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授 中嶋 康博
共同研究機関	なし

### 【研究の背景と目的】

2000年代始めに起きた BSE 問題をきっかけに食品安全への信頼は大いに揺らぎ、政府は食と農の再生を目指して食品行政の抜本的な改革を行った。しかしその後も食品事故、偽装事件が続けて起こり、問題の根絶には至っていない。解決の鍵の一つは消費者重視の社会的責任経営を進めることであり、そこへ誘導するためには食品事業者が自ら信頼向上に努力するようなインセンティブを与える政策スキームが必要になるだろう。本研究では、2008 年度に農林水産省が開始したフード・コミュニケーション・プロジェクト (FCP) を取り上げて、社会的責任経営を推し進める政策としての FCP の効率性、必要性、有効性の評価を行う。

### 【研究の内容】

以下の 4 つの課題について研究を行う。

- ①「食の信頼」の理論的考察
- ②食の事件・事故の外部不経済性の評価、食品事故や偽装事件の実証研究
- ③食の信頼回復・向上のためのシステムの開発と評価
- ④消費者との対話手法の開発と評価

これらの分析を通じて、FCP が食の信頼の回復に対して、どのように、どの程度貢献するのか、インセンティブ型政策として成立するための条件と必要となる行政的支援のあり方などを検討する。加えて、地域での普及活動を通じて、食の信頼向上という公益的プロジェクトに消費者が関心をもつかどうかの把握を試みる。最終的に実践上の課題を明らかにしながら改善に向けた提言を行う。

### 【期待される成果】

「食の不信」がもたらす社会経済的損失の構造と程度を理論的かつ実証的に検討することで、FCP の政策的意義を検証できる。また消費者重視型の食品事業経営を行うことの経済的メリットを定性的・定量的に明らかにすることで、政策としての実現性や持続性を検証する。これらの検証を通じて、食の信頼向上のための政策へ向けた行財政資源の投入の合理性と妥当性を、消費者の評価ならびに事業者関与の持続性の観点から明らかにできる。